

# 哲学

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
哲学思想概論	西洋古代哲学入門	2	荻原 理	3	木曜2限
哲学思想概論	「ある」を巡る哲学の諸相 —古代～近世の形而上学 入門—	2	川島 彬	4	月曜4限
現代哲学概論	心の哲学入門	2	原 塑	3	水曜4限
現代哲学概論	言語とコミュニケーション の哲学	2	原 塑	4	水曜4限
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン	2	原 塑	3	水曜3限
哲学思想基礎講読	ドイツ語の哲学テキストの 基礎講読(1)	2	荻原 理	3	水曜5限
哲学思想基礎講読	ドイツ語の哲学テキストの 基礎講読(2)	2	荻原 理	4	木曜2限
哲学思想基礎講読	心の哲学英文基礎講読	2	原 塑	4	金曜3限
哲学思想各論	義務論の系譜と基礎	2	松本 大理	5	月曜4限
哲学思想各論	哲学的論理学入門	2	大森 仁	5	火曜3限
哲学思想各論	現代現象学	2	原 塑	5	金曜3限
哲学思想各論	哲学的論理学入門	2	大森 仁	6	火曜3限
哲学思想各論	解釈を仕上げていく技法: イマヌエル・カント『純粹理 性批判』「純粹理性のアン チノミー」を題材として	2	千葉 清史	6	集中講義
哲学思想演習	『存在と時間』講読1	2	原 塑	5	月曜3限
哲学思想演習	プラトン『プロタゴラス』を 読む(1)	2	荻原 理	5	火曜4限

# 哲学

哲学思想演習	『存在と時間』講読2	2	原  塑	6	月曜3限
哲学思想演習	プラトン『プロタゴラス』を 読む(2)	2	萩原 理	6	火曜4限
哲学思想演習	心の哲学英文基礎講読	2	原  塑	6	金曜3限

**科目名：哲学思想概論**

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB34202, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：西洋古代哲学入門**

**2・授業の目的と概要：**・西洋古代哲学——ミレトス学派からソクラテス、プラトン、アリストテレスまで、時間があればさらにヘレニズム哲学、プロティノス、アウグスティヌスまで——の主要な論点を学び、自分なりに考えてみることで理解を深める。  
・講義形式だが、質問・意見を積極的に出してもらおう。わかりにくい点は、その場で and/or リアクションペーパーで質問してほしい。次回の授業時でもよい。

**3. 学習の到達目標：**・西洋古代哲学の主要な論点について正確に説明できるようになる。  
・それらの論点（とくに、関心をひくいくつか）については、自分なりに論じることができるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

以下のごく大まかな予定には大幅な変更がありうる。たとえば、予定よりゆっくり進み、アリストテレスまでで終わってしまうかもしれない。

1. イントロ  
ミレトス学派。クセノファネス。ピュタゴラス（1）
2. ピュタゴラス（2）。ヘラクレイトス。ゼノン（1）
3. ゼノン（2）、パルメニデス。エンペドクレス
4. アナクサゴラス、デモクリトス。プロタゴラス、ゴルギアス。ソクラテス（1）
5. ソクラテス（2）、プラトン（1）
6. プラトン（2）
7. プラトン（3）
8. プラトン（4）、アリストテレス（1）
9. アリストテレス（2）
10. アリストテレス（3）
11. アリストテレス（4）
12. エピクロス派（1）、ストア派（1）
13. エピクロス派（2）、ストア派（2）
14. 懐疑派。プロティノス
15. アウグスティヌス

**5. 成績評価方法：リアクション・ペーパー**

**6. 教科書および参考書：**資料はクラスルームで配布する。  
参考書は随時紹介する。

**7. 授業時間外学習：**次回の授業の資料に目を通しておく。  
リアクションペーパーの一部への教員からの応答に目を通す。  
前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。  
（他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。）

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

**9. その他：**

予備知識は特に必要ない。

**科目名：哲学思想概論**

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LB41402, 科目ナンバリング：LHM-PHI205J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：「ある」を巡る哲学の諸相—古代～近世の形而上学入門—

2・授業の目的と概要：本授業の目的は、「ある」が古代から近世に至る主要な形而上学的伝統において、どのように理解されてきたのかを、その歴史的な脈に留意しつつ検討することである。「ある」を巡る問いが、認識論・神学・自然学といかに密接に結びついてきたのかを考察することを通じて、形而上学的探究の意義と哲学史におけるその役割を明らかにする。

3. 学習の到達目標：アイデア（形相）、質料、実体、原因、神といった形而上学の基本概念についての基礎的理解を身につけ、それらの概念が異なる哲学的枠組みの中でどのように定式化され、変容してきたかを説明できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入および初期ギリシアの形而上学（タレス～ピュタゴラス）
2. 初期ギリシアの形而上学（パルメニデス～デモクリトス）
3. プラトンの形而上学（初期～中期対話篇）
4. プラトンの形而上学（後期対話篇）
5. アリストテレスの形而上学
6. ヘレニズム哲学の形而上学（エピクロス派、ストア派）
7. 新プラトン主義の形而上学（プロティノス、プロクロス）
8. 初期中世哲学の形而上学（アレクサンドリアのフィロン、アウグスティヌス、偽ディオニュシオス）
9. スコラ哲学の形而上学（アンセルムス、トマス・アキナス、オッカム）
10. ルネサンス期の形而上学（クザーヌス、フィチーノ、ブルーノ）
11. デカルトの形而上学
12. スピノザの形而上学
13. マルブランシュの形而上学／ライプニッツの形而上学
14. イギリス経験論の形而上学（ロック、バークリー、ヒューム）
15. まとめおよび期末試験

5. 成績評価方法：毎回のコメント提出による平常点（60%）、期末試験（40%）。

6. 教科書および参考書：必要な資料を適宜配布する。

7. 授業時間外学習：予習・復習として配布資料を読み、疑問点をまとめておく。授業内で紹介した文献を読む。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

**科目名：現代哲学概論**

曜日・講時：水曜 4 限

Semester：3 単位数：2

担当教員：原 塑

コード：LB33401, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：心の哲学入門**

**2・授業の目的と概要：**心の哲学は 20 世紀半ば以降、英米圏を中心に大きく研究が進展してきた分野である。この授業では、心の哲学で展開された議論を紹介しながら、心の様々な性質—心の因果性、現象的意識、心の志向性、心の合理性—を順に分析していく。講義形式で授業を行うが、学期中数回、演習問題ととりくんでもらう。

- 3. 学習の到達目標：**1. 概念や論証を分析する技術を習得する。  
2. 心や意識についての現代的議論を理解する。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

この科目は、オンライン（同期型とオンデマンド型の併用）で実施する。  
学期を通じた授業の構成は以下の通りである。

1. はじめに
2. 心の因果性 1
3. 心の因果性 2
4. 心の因果性 3
5. 心と意識 1
6. 心と意識 2
7. 心と意識 3
8. 心の志向性 1
9. 心の志向性 2
10. 心の志向性 3
11. 心の合理性 1
12. 心の合理性 2
13. 心の合理性 3
14. 心に関する諸問題
15. まとめ

- 5. 成績評価方法：**課題の提出（60%）、テスト（40%）

- 6. 教科書および参考書：**金杉武司『心の哲学入門』勁草書房、2007 年

- 7. 授業時間外学習：**授業用スライドを、Google Classroom にアップロードするので、内容を確認するように。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

- 9. その他：**

**科目名：現代哲学概論**

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：原 塑

コード：LB43402, 科目ナンバリング：LHM-PHI206J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：言語とコミュニケーションの哲学**

**2・授業の目的と概要：**この授業では、言語哲学と社会認識論の入門的授業を行う。言語哲学に関しては、和泉悠『悪い言語哲学入門』ちくま新書、2022 年、社会認識論については、山田圭一『フェイクニュースを哲学する一何を信じるべきか』岩波新書、2024 年を取り上げ、その内容を順番に解説する。

**3. 学習の到達目標：**1. 言語哲学の現代的議論に習熟し、悪口やヘイトスピーチが持つ効果を分析できるようになる。  
2. 社会認識論を理解し、現代の認識環境の問題点を指摘できるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

この科目は、オンライン（同期型とオンデマンド型の併用）で実施する。

以下の項目を順番に講義する。

1. はじめに
2. 悪口とは何か
3. 「意味」の意味
4. 指示表現の理論
5. 嘘・誤誘導・ブルシット
6. 総称文
7. ヘイトスピーチ
8. 言語哲学まとめ
9. フェイクニュースとは何か
10. 他人の言っていることを信じてよいのか
11. うわさを信じてよいものか
12. どの専門家を信じればよいのか
13. マスメディアはネットよりも信じられるのか
14. 陰謀論を信じてはいけないのか
15. 社会認識論まとめ

**5. 成績評価方法：**課題の提出（60%）、テスト（40%）

**6. 教科書および参考書：**和泉悠『悪い言語哲学入門』ちくま新書、2022 年  
山田圭一『フェイクニュースを哲学する一何を信じるべきか』岩波新書、2024 年

**7. 授業時間外学習：**授業教材は、Google Classroom の授業用サイトにアップロードされます。授業内容を理解するために参考書を見てみてください。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：哲学思想基礎講読**

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LB33304, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：哲学研究のレッスン**

**2・授業の目的と概要：** この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。教員が選んだテキストをもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。哲学の原と倫理学の教員一名が、ほぼ半分ずつ担当します。

**3. 学習の到達目標：**(1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。  
(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業の実施形態： 対面授業のみ

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

授業内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(1)
3. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(2)
4. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(3)
5. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(4)
6. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(5)
7. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(6)
8. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(7)
9. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(8)
10. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(9)
11. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(10)
12. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(11)
13. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(12)
14. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(13)
15. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読(14)

**5. 成績評価方法：** 報告、討論、コメントによる平常点 (60%) と、最後の発表ないしレポート (40%) で評価します。

**6. 教科書および参考書：** 必要なものは配布します。参考書は演習内で指示します。

**7. 授業時間外学習：** 事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員および TA に相談し、レジュメについてアドバイスを受けるようにして下さい。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

**9. その他：**

具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。哲学専修の2年生はこの水3の授業を必ず履修するようにしてください。他の専修の方は事前または初回時に教員とご相談ください。

**科目名：哲学思想基礎講読**

曜日・講時：水曜 5 限

semester：3 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB33502, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：ドイツ語の哲学テキストの基礎講読 (1)**

**2・授業の目的と概要：**ドイツ語の哲学テキストのごく短い箇所をいくつか取り上げ、文法事項の説明・確認に大きな比重を置いて、非常にゆっくりと読んでいく。哲学的内容の議論もしないわけではないが、主眼にはならない。テキストを選ぶさい、参加者の希望を考慮する。(カント、ヘーゲル、ニーチェ、フッサールなどだろうか。)

主として、ドイツ語の初等文法を学び終えてから、ドイツ語の哲学書の演習にフルメンバーとして参加できるようになるまでの橋渡しをめざす。だが、“ドイツ語の哲学書を読んできたが、文法的知識を研ぎ直したい”という方も歓迎。

**3. 学習の到達目標：**ドイツ語の哲学テキストを文法的に正確かつ十分に説明できるようになる。その文法的理解に基づいて、正確に訳せるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

センテンスごとに音読する。教員の説明を聞き、教員からのクイズに任意で答えたり、質問したりする。

以下の予定は変更がありうる。

第1テキストは教員単独で選定する。

第1回 イントロ／第1テキスト (1)

第2回 第1テキスト (2)

第3回 第1テキスト (3)

第4回 第1テキスト (4)

第5回 第2テキスト (1)

第6回 第2テキスト (2)

第7回 第2テキスト (3)

第8回 第2テキスト (4)

第9回 第2テキスト (5)

第10回 第3テキスト (1)

第11回 第3テキスト (2)

第12回 第3テキスト (3)

第13回 第3テキスト (4)

第14回 第3テキスト (5)

第15回 第3テキスト (6)

**5. 成績評価方法：授業時のパフォーマンス**

リアクションペーパー

**6. 教科書および参考書：**中島 悠爾/平尾 浩三/朝倉 巧『必携ドイツ文法総まとめ』白水社 2003 年  
テキストは授業時に配布する

**7. 授業時間外学習：**授業で読んだテキストの複数、次回読むテキストの予習

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

**9. その他：**

わからないことがあっても気になさらず参加し続けてくださればと思います

**科目名：哲学思想基礎講読**

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB44202, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：ドイツ語の哲学テキストの基礎講読 (2)**

**2・授業の目的と概要：**ドイツ語の哲学テキストのごく短い箇所をいくつか取り上げ、文法事項の説明・確認に大きな比重を置いて、非常にゆっくりと読んでいく。哲学的内容の議論もしないわけではないが、主眼にはならない。テキストを選ぶさい、参加者の希望を考慮する。(カント、ヘーゲル、ニーチェ、フッサールなどだろうか。)

主として、ドイツ語の初等文法を学び終えてから、ドイツ語の哲学書の演習にフルメンバーとして参加できるようになるまでの橋渡しをめざす。だが、“ドイツ語の哲学書を読んできたが、文法的知識を研ぎ直したい”という方も歓迎。(ただし、今学期の参加者の多くは前学期の同じ授業にも参加していることが予想される。その場合には、今学期のレベルやペースは前学期より少し上がることが予想される。)

**3. 学習の到達目標：**ドイツ語の哲学テキストを文法的に正確かつ十分に説明できるようになる。その文法的理解に基づいて、正確に訳せるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

センテンスごとに音読する。教員の説明を聞き、教員からのクイズに任意で答えたり、質問したりする。

以下の予定は変更がありうる。

第1テキストは教員単独で選定する。

第1回 イン트로／第1テキスト (1)

第2回 第1テキスト (2)

第3回 第1テキスト (3)

第4回 第1テキスト (4)

第5回 第2テキスト (1)

第6回 第2テキスト (2)

第7回 第2テキスト (3)

第8回 第2テキスト (4)

第9回 第2テキスト (5)

第10回 第3テキスト (1)

第11回 第3テキスト (2)

第12回 第3テキスト (3)

第13回 第3テキスト (4)

第14回 第3テキスト (5)

第15回 第3テキスト (6)

**5. 成績評価方法：授業時のパフォーマンス**

リアクションペーパー

**6. 教科書および参考書：中島 悠爾/平尾 浩三/朝倉 巧『必携ドイツ文法総まとめ』白水社 2003 年**

テキストは授業時に配布する

**7. 授業時間外学習：授業で読んだテキストの複数、次回読むテキストの予習**

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

わからないことがあっても気になさらず参加し続けてくださればと思います

**科目名：哲学思想基礎講読**

曜日・講時：金曜 3 限

semester：4 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LB45307, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：心の哲学英文基礎講読**

**2・授業の目的と概要：**心の哲学の基礎的なテキストを訳読形式で読む。テキストは以下を予定している。

David J. Chalmers. 2010. "The singularity: A philosophical analysis," Journal of Consciousness Studies, 17, No. 9-10: 7-65.

- 3. 学習の到達目標：**1. 心の哲学の基礎的な知見を理解する。  
2. 英語で書かれた哲学文献を読解できるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

この授業は以下の通り、進行する。

1. イントロダクション
- 2～15. 心の哲学関連文献の訳読

**5. 成績評価方法：**訳読 (60%)、レポート (40%)

**6. 教科書および参考書：**David J. Chalmers. 2010. "The singularity: A philosophical analysis," Journal of Consciousness Studies, 17, No. 9-10: 7-65.

**7. 授業時間外学習：**課題テキストをあらかじめ、自宅等で読んでおくこと。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

この授業は、哲学専修・倫理学専修学部 2 年生向けの演習である。ただし、他の専修の学生、学部 3・4 年生、大学院生であっても、希望する場合、受講してもよい。

**科目名：哲学思想各論**

曜日・講時：月曜 4 限

semester：5 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LB51401, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：義務論の系譜と基礎

2. 授業の目的と概要：義務論の考え方について理解を深めることを目的とする。関連する哲学思想上の論点も複数取り扱う。

3. 学習の到達目標：義務論の考え方と問題点について理解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は講義を中心に進める。

1. ガイダンス、イントロダクション
2. 規範倫理学における義務論の位置づけ 1
3. 規範倫理学における義務論の位置づけ 2
4. 系譜：カントまで
5. カント 1
6. カント 2
7. カント 3
8. W. D. ロスなど 1
9. W. D. ロスなど 2
10. ロールズ、討議倫理学など 1
11. ロールズ、討議倫理学など 2
12. コースガード、ダーウォル 1
13. コースガード、ダーウォル 2
14. 義務論の特徴分析 1
15. 義務論の特徴分析 2

5. 成績評価方法：小レポートおよび期末レポートによる評価を行う。

6. 教科書および参考書：必要な資料を適宜配布する。

7. 授業時間外学習：扱う哲学者の著作・論文をいろいろ読む。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

**科目名：哲学思想各論**

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大森 仁

コード：LB52303, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：哲学的論理学入門**

**2・授業の目的と概要：**論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、古典命題論理に基づいて、現代の論理学の基本的な考え方を習得することを目的とします。

**3. 学習の到達目標：**論理学とはどのような学問であるのかを理解すること、及び現代の論理学における一つの到達点である古典命題論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解することの二点を目的とします。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- [1] ガイダンス
- [2] 古典命題論理の形式言語
- [3] 古典命題論理の意味論 (1)
- [4] 古典命題論理の意味論 (2)
- [5] 古典命題論理の意味論 (3)
- [6] 古典命題論理の意味論 (4)
- [7] 古典命題論理の証明体系 (1)
- [8] 古典命題論理の証明体系 (2)
- [9] 古典命題論理の証明体系 (3)
- [10] 古典命題論理の証明体系 (4)
- [11] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (1)
- [12] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (2)
- [13] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (3)
- [14] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (4)
- [15] まとめ

**5. 成績評価方法：**期末レポートを主とし (60 パーセント)、平常点 (コメントペーパーの提出など) を加味します (40 パーセント)。

**6. 教科書および参考書：**講義中に適宜紹介します。

**7. 授業時間外学習：**講義の内容の復習をしっかりとしてください。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

科目名：哲学思想各論

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LB55301, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：現代現象学

2. 授業の目的と概要：ショーン・ギャラガー&ダン・ザハヴィ『現象学的な心』石原孝二他訳、勁草書房、2011年の前半の日本語訳を購読する。これは、意識や心の特質を、現象学の伝統と現代の心理学・神経科学の知見を融合させて明らかにしようとする書籍である。

3. 学習の到達目標：意識や心を現象学、心理学、神経科学の知見を融合させて、理解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

該当書籍の各章を、一章あたり3回程度の授業時間を使って、読んでいく予定である。

授業の進行は以下の通り。

1. イントロダクション
- 2～15. 『現象学的な心』読解

5. 成績評価方法：コメント (60%)、レポート (40%)

6. 教科書および参考書：ショーン・ギャラガー&ダン・ザハヴィ『現象学的な心』石原孝二他訳、勁草書房、2011年

7. 授業時間外学習：該当書籍を自宅で精読する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

**科目名：哲学思想各論**

曜日・講時：火曜 3 限

semester：6 単位数：2

担当教員：大森 仁

コード：LB62301, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：哲学的論理学入門**

**2・授業の目的と概要：**論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、多値論理に関して技術的・哲学的に基本的な事柄について扱います。

**3. 学習の到達目標：**多値論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解すること、及び関連する哲学的話題を理解することの二点を目的とします。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- [1] ガイダンス
- [2] 多値論理の形式言語
- [3] 多値論理の意味論 (1)
- [4] 多値論理の意味論 (2)
- [5] 多値論理の意味論 (3)
- [6] 多値論理の意味論 (4)
- [7] 多値論理の証明体系 (1)
- [8] 多値論理の証明体系 (2)
- [9] 多値論理の意味論と証明体系の関係 (1)
- [10] 多値論理の意味論と証明体系の関係 (2)
- [11] 多値論理の意味論と証明体系の関係 (3)
- [12] 多値論理の意味論と証明体系の関係 (4)
- [13] 多値論理に関連する哲学的話題 (1)
- [14] 多値論理に関連する哲学的話題 (2)
- [15] まとめ

**5. 成績評価方法：**期末レポートを主とし (60 パーセント)、平常点 (コメントペーパーの提出など) を加味します (40 パーセント)。

**6. 教科書および参考書：**講義中に適宜紹介します。

**7. 授業時間外学習：**講義の内容の復習をしっかりとしてください。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：哲学思想各論**

**曜日・講時：集中講義**

**セメスター：6 単位数：2**

**担当教員：講師（非）**

**コード：LB98816, 科目ナンバリング：LHM-PHI305J, 使用言語：日本語**

**1. 授業題目：**解釈を仕上げていく技法：イマヌエル・カント『純粋理性批判』『純粋理性のアンチノミー』を題材として

**2・授業の目的と概要：**哲学的テキストを十分に理解するためには、ただ漫然と読んでいるだけではダメである。要所要所で読解のための「補助線」を引き、また適切な解釈的問いを立てていくことが必要だ。《《仮説を立て、検証する》という手続きは文献解釈でも必要なのだ。》さて、適切な解釈的問いを立て、「正しい」解釈に到達するためにはどのようにしたらよいのか？

本講義では、特にイマヌエル・カント(著)『純粋理性批判』『純粋理性のアンチノミー』(以下「アンチノミー論」と略記)を題材とし、初学者が、どのような点に注目し、そしてどのような解釈的問いを立てていけば、テキストをより深く／明瞭に理解することができるようになるかを示したいと思う。

本講義は、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の方式で行なわれる。すなわち、たんに講師が一方的に情報提供を行う、というやり方ではなく、履修者のみなさんに実際に当該テキストを読み、試行錯誤し、議論してもらう(おそらく小グループをいくつか作り、議論することになるだろう)。その点で、本講義は、通常の「講義」というよりは「実習」に近い。私の助言を参考にしつつ、実際に解釈実践を積むことで、解釈スキルを養成することこそが、本講義のねらいである。

なお、時間的制限により、本講義ではアンチノミー論の全てを扱うことはしない。検討対象となるのは次の箇所である：第一節、第二節(特に第一アンチノミー)、第六節、第七節、第九節(特に数学的アンチノミーの解決(A532/B560まで))。

レベル設定としては、カント哲学についての基礎知識を持っていない——が学習意欲はある——学部3・4年生がついていけるようなものにするつもりである。とはいえ、(カント研究を専門とする)修士・博士課程学生であってもそれなりに楽しめる内容になるはずだ。意欲あるみなさんの参加を期待する。

**3. 学習の到達目標：**本講義を最後まで聴講するならば、結果的に、アンチノミー論全体についてのかなり明瞭な理解が得られることだろう。しかし、本講義の眼目はむしろ、解釈スキルの養成にある。すなわち、テキスト読解に際して、履修者のみなさんが自分自身で適切な解釈的問いを立て、自ら解釈の精度を高めていけるように「なる」ことこそが、本講義の目標である。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

[第1日] 読解のための基礎事項

事前課題：アンチノミー論(のうち本講義で扱う箇所)を各自で読み、そこで展開されている議論を自分が現時点で可能な限りで明瞭にまとめ、発表できるようにしておくこと。(レジュメ2部(自分用と提出用)を印刷して持参。第1回での履修者間での相互発表に用いるものなので、正式な論文・レポートの形式である必要はない。箇条書きのような形でもかまわない。)また、余力があれば、アンチノミー論第六節での「超越論的観念論」についてのカントの説明を読んできていただきたい。

第1回：相互発表を行い、各自が現時点でどこまでの理解を持っているかを確認

第2回：アンチノミー論を理解するための基礎知識の説明(特に第一節)

第3回：解釈上の補助線の提示(1)／超越論的観念論について(第六節)

[第2日] アンチノミー論第七節(アンチノミーの一般的解決)の読解

事前課題：前回講義で与えられた解釈上の補助線に留意しつつ、第七節を各自で読み、そこで展開されている議論を自分が現時点で可能な限りで明瞭かつ詳細な仕方でもまとめ、発表できるようにしておくこと(レジュメ2部を印刷して持参)。

第4回：相互発表を行い、各自が現時点でどこまでの理解を持っているかを確認

第5回：第七節の解釈上の問題提起／統一的解釈の提示

第6回：解釈上の補助線の提示(2)：アンチノミーの解決の観点からアンチノミーの導出(第二節)を振り返るとどうなるか？

[第3日] アンチノミー論第二節(諸アンチノミーの導出)の読解

事前課題：事前に配布してある私の論文(15頁程度；日本語)を参考にしつつ、第二節の特に第一アンチノミーの導出の箇所を読み、定立・反定立の証明構造について小発表ができるようにしておくこと(レジュメ2部を印刷して持参)。

第7回：課題の相互発表／アンチノミーの導出の統一的構造の把握

第8回：アンチノミー導出・解決の統一的構造——すなわちアンチノミー論の全体像——の把握

第9回：問いの変更：アンチノミー論の理解ではなく、超越論的観念論の解明を目指すように解釈的問題設定を解釈の目的設定を変えたらどうなるか？ 二世界解釈と二側面解釈の導入。

[第4日] 超越論的観念論解釈の諸相

事前課題：『純粋理性批判』における、指定したテキスト箇所を読んでくる。また、大学院生は、事前に配布してある論文に目を通してきてもらえればなおよい。

第10回：二世界解釈／二側面解釈に関わるテキスト箇所の検討

第11回：私の解釈の紹介：二世界解釈を正当化する

第12回：新たな問題提起：カントの超越論的観念論によるアンチノミー解決によれば、条件系列は有限でもなければ実無限でもない；それは可能無限である。——しかし、「可能無限」とはどのような立場なのか、我々は本当にわかっているのだろうか？

[第5日] カントのアンチノミー解決を深掘りする

ねらい：現代の分析哲学や数学の哲学の道具立てを援用することによって、ただテキストを読んでいただけでは出てこないような新たな解釈的問いが立てられるようになり、このことを通じてテキスト解釈をさらに深めていくことができることを体験する。

事前課題：前回講義の問題設定を参考にして、アンチノミー論第九節の、とりわけ第一アンチノミーの解決の箇所（A517-523/B545-551）を読み、その内容についての小発表ができるようにしておくこと（レジュメ2部を印刷して持参）。また、「実無限」／「可能無限」の区別について簡単に調べてくること。

第13回：課題の相互発表／「可能無限」をめぐる問題の提示

第14回：直観主義数学を導きの糸として、可能無限の最初のモデルを得る

第15回：直観主義数学から得た成果を経験的領域に適用する際の諸問題の解決のアウトラインを紹介する

**5. 成績評価方法：**(1) 各回の授業課題：それぞれ10%（計50%）

(2) 授業での議論への貢献：50%

**6. 教科書および参考書：**教科書

イマヌエル・カント、『純粋理性批判』〔どの訳でもかまわないので、入手すること；ただし、岩波文庫（篠田訳）と光文社古典新訳文庫（中山訳）はお勧めしない。〕講義では基本的に日本語訳を用いるが、ドイツ語原文や英訳を参考にできる人はそうすることを強くお勧めする。

千葉 清史、『純粋理性批判』諸アンチノミー導出の統一的構造，日本カント協会（編），『日本カント研究9：カントと悪の問題』，理想社，2008年，141-156頁。（第7回授業で用いる。）

参考書

入門書

・御子柴善之、『自分で考える勇氣

**7. 授業時間外学習：**上述の、毎回の事前課題を着実にやってくることを、そして何よりも、『純粋理性批判』の当該箇所を自分自身で読み込むことが必要となる。とりわけ、最初の二日分の事前課題のために読むべき箇所は多いので（[1日目] アンチノミー論のうち本講義で扱う箇所全体；[2日目] 特に第七節）、これに関しては講義開始前に十分に準備しておくことをお勧めする。

また、『純粋理性批判』事前知識は履修のための必要条件ではないが、あれば本講義をより有意義にすることができるだろう。上述「参考書」の「入門書」に挙げてある文献のほか、各自

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：哲学思想演習**

曜日・講時：月曜3限

semester：5 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LB51310, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：『存在と時間』講読1

2. 授業の目的と概要：マルティン・ハイデガーの著作である『存在と時間』のドイツ語原典を、その英語訳、日本語訳を参照しながら、購読する。

3. 学習の到達目標：1. 『存在と時間』の議論展開を理解できるようになる。  
2. 哲学のテキストの読解能力を高める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

2026年前期には、『存在と時間』を最初から読む。

授業の進行は以下の通り。

1. インTRODクシヨン
- 2～15. 『存在と時間』読解

5. 成績評価方法：訳読の担当（60%）、レポート（40%）

6. 教科書および参考書：Martin Heidegger, 1986, Sein und Zeit. Tübingen, Max Niemeyer Verlag. (PDFを配布する)  
ハイデガー『存在と時間 I』『存在と時間 II』『存在と時間 III』、原佑・渡邊二郎訳、中公クラシックス。  
マルティン・ハイデッガー『存在と時間 上』『存在と時間 下』、細谷貞雄訳、ちくま学芸文庫。

7. 授業時間外学習：『存在と時間』の原典を自宅で訳読する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

**科目名：哲学思想演習**

曜日・講時：火曜 4 限

semester：5 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LB52406, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：プラトン『プロタゴラス』を読む (1)**

**2・授業の目的と概要：**古代ギリシャ語の初等文法を一通り学び終えていることが参加の条件（覚え残しが多々あってもよい）。プラトン『プロタゴラス』の原語（古代ギリシャ語）テキストをゆっくり、丁寧に読んでいく。今学期は冒頭から、順調にいけば 314e くらいまで進むであろう（続きは次学期）。主要な日本語訳・英訳や注解を適宜参照する。内容について議論する。

**3. 学習の到達目標：**プラトン『プロタゴラス』の冒頭部分について、語学的、内容的に正確に説明し、問題提起できるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

初回を除く各回のために、読む箇所と担当者をあらかじめ決めておく。授業時、担当者はまずテキストを音読し、次に日本語に訳し、考えたことやわかりにくかった語学的・内容的な点を述べ、問題提起する。それをもとに皆で議論する。

校訂本は主に Nicholas Denyer, PLATO: Protagoras (Cambridge Greek and Latin Classics, 2008) のものを用いる。

適宜参照する訳は、中澤務訳、藤沢令夫訳、英訳は C. C. W. Taylor 訳、S. Lombardo & K. Bell 訳 (Cooper 編のプラトン全集所収)。

適宜参照する注釈は、上掲の Denyer の本に所収もの、上掲の Taylor の本に所収のものなど。

以下の予定は変更がありうる。

1. イントロ。309a  
[今回のみ予習不要]
2. 309a-b
3. 309c-d
4. 310a-b
5. 310b-c
6. 310c-d
7. 310d-e
8. 310e-311b
9. 311b-d
10. 311e-312a
11. 312a-c
12. 312c-e
13. 313a-d
14. 313d-314b
15. 314b-e

**5. 成績評価方法：授業時のパフォーマンスによる**

**6. 教科書および参考書：**Nicholas Denyer, PLATO: Protagoras (Cambridge Greek and Latin Classics, 2008) を基本テキストとする。

参考書として

プラトン、中澤務訳『プロタゴラス—あるソフィストとの対話』（光文社古典新訳文庫、2010 年）

プラトン、藤沢令夫訳『プロタゴラス—ソフィストたち』（岩波文庫、1988 年）

C. C. W. Taylor (ed.), PPROTAGORAS (Clarendon Plato Series), revised

**7. 授業時間外学習：**次回に読む箇所を原語で読む（適宜、日本語訳や英訳、注釈を参照しながら）。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：哲学思想演習**

曜日・講時：月曜3限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LB61303, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：『存在と時間』講読2

2. 授業の目的と概要：マルティン・ハイデガーの著作である『存在と時間』のドイツ語原典を、その英語訳、日本語訳を参照しながら、購読する。

3. 学習の到達目標：1. 『存在と時間』の議論展開を理解できるようになる。  
2. 哲学のテキストの読解能力を高める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

2026年後期には、前期に続いて、『存在と時間』を読む。

授業の進行は以下の通り。

1. イントロダクション
- 2～15. 『存在と時間』読解

5. 成績評価方法：訳読の担当（60%）、レポート（40%）

6. 教科書および参考書：Martin Heidegger, 1986, Sein und Zeit. Tübingen, Max Niemeyer Verlag. (PDFを配布する)  
ハイデガー『存在と時間 I』『存在と時間 II』『存在と時間 III』、原佑・渡邊二郎訳、中公クラシックス。  
マルティン・ハイデッガー『存在と時間 上』『存在と時間 下』、細谷貞雄訳、ちくま学芸文庫。

7. 授業時間外学習：『存在と時間』の原典を自宅で訳読する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

**科目名：哲学思想演習**

**曜日・講時：**火曜 4 限

**セメスター：**6 **単位数：**2

**担当教員：**荻原 理

**コード：**LB62404, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**プラトン『プロタゴラス』を読む (2)

**2・授業の目的と概要：**古代ギリシャ語の初等文法を一通り学び終えていることが参加の条件 (覚え残しが多々あってもよい)。プラトン『プロタゴラス』の原語 (古代ギリシャ語) テキストをゆっくり、丁寧に読んでいく。今学期は、前学期に進んだところからの続き。

主要な日本語訳・英訳や注解を適宜参照する。内容について議論する。

**3. 学習の到達目標：**プラトン『プロタゴラス』の導入的部分について、語学的、内容的に正確に説明し、問題提起できるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

初回を除く各回のために、読む箇所と担当者をあらかじめ決めておく。授業時、担当者はまずテキストを音読し、次に日本語に訳し、考えたことやわかりにくかった語学的・内容的な点を述べ、問題提起する。それをもとに皆で議論する。

校訂本は主に Nicholas Denyer, PLATO: Protagoras (Cambridge Greek and Latin Classics, 2008) のものを用いる。

適宜参照する訳は、中澤務訳、藤沢令夫訳、英訳は C. C. W. Taylor 訳、S. Lombardo & K. Bell 訳 (Cooper 編のプラトン全集所収)。

適宜参照する注釈は、上掲の Denyer の本に所収もの、上掲の Taylor の本に所収のものなど。

第1回 イン트로。前学期に達した箇所から 10 行ほど (今回は予習不要)

第2回 続き 20 行ほど

第3回 続き 20 行ほど

第4回 続き 22 行ほど

第5回 続き 22 行ほど

第6回 続き 24 行ほど

第7回 続き 24 行ほど

第8回 続き 24 行ほど

第9回 続き 25 行ほど

第10回 続き 25 行ほど

第11回 続き 25 行ほど

第12回 続き 25 行ほど

第13回 続き 26 行ほど

第14回 続き 26 行ほど

第15回 続き 26 行ほど

**5. 成績評価方法：**授業時のパフォーマンスによる

**6. 教科書および参考書：**Main text: Nicholas Denyer, PLATO: Protagoras (Cambridge Greek and Latin Classics, 2008)

プラトン、中澤務訳『プロタゴラス—あるソフィストとの対話』(光文社古典新訳文庫、2010 年)

プラトン、藤沢令夫訳『プロタゴラス—ソフィストたち』(岩波文庫、1988 年)

C. C. W. Taylor (ed.), PPROTAGORAS (Clarendon Plato Series), revised edition,

**7. 授業時間外学習：**次回に読む箇所を原語で読む (適宜、日本語訳や英訳、注釈を参照しながら)。

**8. 実務・実践的授業/Practical business**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

**9. その他：**

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LB65301, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：心の哲学英文基礎講読

2・授業の目的と概要：心の哲学の基礎的なテキストを訳読形式で読む。テキストは以下を予定している。

David J. Chalmers. 2010. "The singularity: A philosophical analysis," Journal of Consciousness Studies, 17, No. 9-10: 7-65.

3. 学習の到達目標：1. 心の哲学の基礎的な知見を理解する。  
2. 英語で書かれた哲学文献を読解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は以下の通り、進行する。

1. インTRODダクシヨN
- 2～15. 心の哲学関連文献の訳読

5. 成績評価方法：訳読（60%）、レポート（40%）

6. 教科書および参考書：David J. Chalmers. 2010. "The singularity: A philosophical analysis," Journal of Consciousness Studies, 17, No. 9-10: 7-65.

7. 授業時間外学習：課題テキストをあらかじめ、自宅等で読んでおくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

この授業は、哲学専修・倫理学専修学部 2 年生向けの演習である。ただし、他の専修の学生、学部 3・4 年生、大学院生であっても、希望する場合、受講してもよい。